

平成 21 年 6 月 12 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2008

課題番号：18520370

研究課題名（和文） 方言談話データベースを活用した表現法の変化に関する研究

研究課題名（英文） Research on the Dialect Expressions Using Japanese Dialect Database : Comparisons between Older and Younger Speakers

研究代表者

井上 文子（INOUE FUMIKO）

独立行政法人国立国語研究所・情報資料部門・グループ長

研究者番号：90263186

研究成果の概要：

同一地域における複数の世代の方言談話を比較・対照し、方言談話に見られる表現法の変容の実態と、地域間の変化の過程の相違について考察することを目的とする。

国立国語研究所「全国方言談話データベース」を基礎データとし、これらと比較するために、同一地域で、新規に、高年層と若年層の談話を収録した。蓄積・収録した方言談話は、言語データベースとして整備し、公開する。

従来扱われることが少なかった応答表現、呼びかけ表現、感動表現、間投表現などを中心に、話しことばである方言談話に特徴的な表現に焦点をあて、各地域・各世代の談話に現れる表現法について、記述・分析を行った。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,300,000	0	1,300,000
2007年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総計	3,500,000	660,000	4,160,000

研究分野：方言

科研費の分科・細目：言語学・日本語学

キーワード：国語学、談話資料、地域差、世代差、言語変化

1. 研究開始当初の背景

(1) コンピューターを利用してデータベース化された大規模な言語資料であるコーパスは、日本でも 2000 年頃から構築が開始され、「話し言葉コーパス」「書き言葉コーパス」の公開に伴って、コーパスを用いた研究や教育が盛んになった。地域の話しことばである方言を対象とした言語資料についても、その

重要性が認識され始め、方言による会話を電子化し、データベース化したものが公開されるようになった。国立国語研究所が「日本語研究資源の形成と共有」の観点から作成・公開した「全国方言談話データベース」もそのひとつである。次第に、方言談話データベースを言語資料として活用する研究の基礎が整ってきた。

(2) 日本語の方言については、質問紙調査によって多くの成果が蓄積されてきたが、それは言語使用意識の側面が強く、実際の会話の中で用いられている形式や用法の記述はまだ不十分であった。特に、応答表現・呼びかけ表現・感動表現・間投表現については、話しことばに特徴的な要素であるにもかかわらず、質問紙による調査の難しさも影響して、従来ほとんど扱われることがなかった。その空白を埋め、話しことばの実態を明らかにするために、方言談話データベースを方言研究に積極的に活用することの重要性を認識するに至った。

2. 研究の目的

(1) 方言談話に現れる応答表現・呼びかけ表現・感動表現・間投表現などの表現法に焦点をあてて、記述・分析をおこなう。また、研究組織のメンバーがそれぞれ研究をおこなってきた、条件表現・回想表現・文末表現などについても、方言談話における運用についての実態を明らかにする。

(2) 同一地域における複数の世代の方言談話を比較・対照し、方言談話に見られる表現法の変容の実態と、地域間の変化の過程の相違について考察する。

(3) 方言談話の地域間比較をすることによって、各地域の表現法の経年的変化と、その変化の方向性を探り、方言談話の地域的特性を明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 表現法に関する先行研究、当該地域における調査報告、各地の談話資料などを収集・整理し、研究の方針・調査の計画などについて検討する。

(2) 『国立国語研究所資料集 13 全国方言談話データベース 日本のおもしろさことば集成』(冊子・CD-ROM・CD、全20巻)として刊行されている「全国方言談話データベース」を基礎データとして利用し、談話に出現する表現法の特徴を記述・分析する。分析の観点や方法については、先行研究を参考にしつつ、意見交換・討論をもとに決定する。

(3) 基礎データと比較する資料を得るために、「全国方言談話データベース」の調査地点から数地点を選び、複数の世代の談話を収録する。収録に関しては、「全国方言談話データベース」とできる限り条件を統一して、調査地点、話者の属性、収録内容、収録時間、録音・録画方法、収録手順などを決定する。

(4) 収録した談話は、方言音声をもとに文字化し、共通語訳をつける。これらの言語データは、効率的に検索がおこなえるよう電子化し、基礎データとしている「全国方言談話データベース」と比較が可能な形に整える。録音データ・録画データについても文字化と対応させて整備する。また、談話を利用するために必要な地域情報、談話情報などをまとめる。

(5) 新規に収録した高年層談話・若年層談話に現れる表現法の特徴を記述・分析する。分析の観点や方法については、基礎データの分析結果や先行研究を参考にしつつ、意見交換・討論をもとに決定する。

(6) 同一地点における、基礎データと新規に収録した高年層談話・若年層談話データのそれぞれの談話の特徴について総合的に比較し、経年的な変化の過程について分析・考察する。随時、検討会・研究会を開き、分析結果・考察などについて意見を交換する。

(7) 収録地域の談話における表現法の地域差についての分析・考察をおこなう。

(8) 研究課題により収集した資料および基礎データを用いた研究の成果をまとめ、報告書として刊行する。

(9) 新規に収録した各地点の高年層・若年層の談話資料を整備し、方言談話データベースとして公開する。

4. 研究成果

(1) 「全国方言談話データベース」に出現する表現法の特徴について、研究組織のメンバーのそれぞれの専門分野の知見を生かして、記述をおこなった。記述に際しては、研究代表者・研究分担者のこれまでの研究成果や、表現法に関する先行研究、当該地域における調査報告、各地の談話資料なども参照しつつ、条件表現・とりたて表現・受身表現・回想表現・文末表現・応答表現・呼びかけ表現・感動表現・間投表現などについて記述を試みた。

たとえば、順接仮定条件表現については、方言特有形式として特徴的な「ギー」が佐賀県を中心にみられる。この「ギー」に焦点をあてて、「ナイ」「バ」などととも、形式ごとの特徴をまとめ、基礎データから得られた用例と用法を整理した。「ギー」を意味用法によって分類すると、標準語の「ば」「と」「たら」「なら」の範囲をカバーするような、「仮説条件」「一般条件」「反復習慣」「事実的用法」「評価」「前置き」「接続詞」などの広い

意味領域を持つことが観察された。

(2) 基礎データの分析結果に基づき、「全国方言談話データベース」の調査地点の中から、新規収録地点を選定した。平成18年度には、秋田県湯沢市角間において、高年層(70歳代)4名の談話、若年層(20歳代)2名の談話をそれぞれ90分程度収録した。平成19年度には、富山県砺波市鷹栖において、高年層(70歳代)4名の談話、若年層(20歳代)2名の談話をそれぞれ90分程度収録した。平成20年度には、福岡県北九州市八幡東区大蔵河内において、高年層(70歳代)3名の談話、若年層(20歳代)3名の談話をそれぞれ90分程度収録した。談話データを分析するにあたっては非言語行動の重要性も高いため、談話場面の録音とともに録画もおこなった。

収録した音声・画像をもとに、談話を文字化し、共通語訳をつけ、高年層・若年層の方言談話資料をそれぞれ作成した。これらの言語データは、効率的に検索・加工が行えるよう、また、資料の劣化が生じないように、電子データとしている。

(3) 新規に収録した高年層談話・若年層談話に現れる表現法の特徴について、研究組織のメンバーそれぞれの専門分野の知見を生かして、記述・分析をおこなった。記述・分析の観点や方法については、研究代表者・研究分担者のこれまでの研究成果を生かして、基礎データの分析結果、表現法に関する先行研究、当該地域における調査報告、各地の談話資料なども参照しつつ、談話分析的観点、対照方言学的観点、文法的観点、計量言語学的観点から分担して担当した。

たとえば、談話分析的観点から応答表現に焦点をあてたものとして、あいづちにかかわるものがある。標準語の応答表現「ウン」系と「ソウ」系が担う機能に対応するものとして、秋田県湯沢市角間の若年層女性の談話には、応答表現「ンダ」系と「ソウ」系が現れる。方言における用法の整理や出現文脈の異同について、談話データをもとに分析している。「ソウ」系は、「問いかけへの肯定応答」「相手の発話への肯定的応答」「あいづち」「了解・気づき」という4タイプに分けられる。一方、「ンダ」系は、「事実情報を問う質問や確認への肯定」として現れる。秋田県湯沢市角間の若年層女性の談話資料からは、「ンダ」系が対象とする情報よりも、「ソウ」系が対象とする情報のほうが、聞き手にとって意外性のより大きい、より関心をそそるなどの意味で刺激の強いものであることが観察された。

(4) 基礎データとした「全国方言談話データベース」には、秋田県湯沢市角間で昭和52

年に収録された明治31～42年出生の話者の談話、富山県砺波市鷹栖で昭和56年に収録された明治31～40年出生の話者の談話、福岡県北九州市八幡東区大蔵河内で昭和56年に収録された明治34～40年出生の話者の談話が含まれている。これらの基礎データと、新規に収録した高年層談話データ、若年層談話データ、同一地点におけるそれぞれの談話の特徴について比較し、経年的な変化の過程について分析・考察した。

標準語の干渉、疑似標準語、中間方言、新方言など、伝統的文法形式に見られる世代差が観察された。

「見かけの時間による変化」ではあるが、同一地点における三つの世代(約30～50年間隔)の談話の比較を行うことによって、当該地域の経年的な変化の過程を探ることが可能となった。

(5) 収録した談話資料と研究成果の一部を、研究成果報告書、井上文子編『方言談話データベースを活用した表現法の変化に関する研究』としてまとめた。

「研究と調査の概要」「談話の収録方法と機材」「秋田県若年層会話における応答表現－「ンダ」系と「ソウ」系の出現文脈に関する試論－」「佐賀方言の順接仮定条件表現－談話資料の用例の整理－」「資料：富山県砺波市鷹栖 高年層談話資料(抄)」「資料：富山県砺波市鷹栖 高年層談話資料(抄)」を所収している。

(6) 今後、さらに、地点における経年的変化を追跡できるように、各地の談話収録調査をおこなうとともに、談話に出現する表現法の特徴を記述・分析し、その変化の実態をとらえることに努めたい。

また、これまでの成果を発展させて、世代による変化が顕著な事象を探索し、社会的環境の違いと方言の変容の相関関係について仮説をたて、地域間の比較を試みることも課題である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔図書〕(計1件)

①井上文子編

『方言談話データベースを活用した表現法の変化に関する研究』

(課題番号：18520370)

平成18(2006)～20(2008)年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(一般))研究成果報告書

[その他]

- ①秋田県湯沢市角間における高年層談話資料
(談話音声, 談話映像, 文字化, 共通語訳)
- ②秋田県湯沢市角間における若年層談話資料
(談話音声, 談話映像, 文字化, 共通語訳)
- ③富山県砺波市鷹栖における高年層談話資料
(談話音声, 談話映像, 文字化, 共通語訳)
- ④富山県砺波市鷹栖における若年層談話資料
(談話音声, 談話映像, 文字化, 共通語訳)
- ⑤福岡県北九州市八幡東区大蔵河内における高年層談話資料
(談話音声, 談話映像, 文字化, 共通語訳)
- ⑥福岡県北九州市八幡東区大蔵河内における若年層談話資料
(談話音声, 談話映像, 文字化, 共通語訳)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

井上 文子 (INOUE FUMIKO)
独立行政法人国立国語研究所・情報資料部門・グループ長
研究者番号：90263186

(2) 研究分担者

熊谷 康雄 (KUMAGAI YASUO)
独立行政法人国立国語研究所・情報資料部門・部門長
研究者番号：30215016

熊谷 智子 (KUMAGAI TOMOKO)
独立行政法人国立国語研究所・研究開発部門・主任研究員
研究者番号：40207816

三井 はるみ (MITSUI HARUMI)
独立行政法人国立国語研究所・研究開発部門・主任研究員
研究者番号：50219672

井上 優 (INOUE MASARU)
独立行政法人国立国語研究所・日本語教育基盤情報センター・グループ長
研究者番号：30213177